

コウゾリナの変種ハマコウゾリナ *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* KRYLOV
var. *litoralis* KITAMURA var. nov.

Biennis. Caulis caespitosus vel e basi valde ramosus ascendens vel divaricato-ascendens 10–25 cm longus, pilis rigidis apice bifurcatis patentibus hispidus. Folia caulina sub anthesi viva rosulata, oblanceolata 11–14 cm longa 11–18 mm lata apice obtusa basi attenuata utrinque sparse hispidula, folia caulina media anguste oblonga basi semiamplexicaulia. Capitula numerosa circ. 2 cm lata, pedunculis 2–4 cm longis. Involucrum tubuloso-campanulatum in sicco nigrovirescens, 11–12 mm longum 12–14 mm latum in sicco, squamae lineares, exteriores 3–4 mm longae, interiores 11–12 mm longae, dorso pilis 0.5–0.8 mm longis rigidis hirsutae. Corolla flava 12 mm longa. Achenia fusco-rubescens 4.5–5 mm longa, pappus sordide stramineus 7 mm longus.

Hab. in regione litorali. Japonia, Prov. Sagami: Zushi (29 Oct. 1966 M. HIROE), Yokohama, Yamate (12 Oct. 1913 Masao SUZUKI). Prov. Awa: Tateyama (27 Oct. 1966 M. HIROE). Prov. Shimofusa: Inubosaki (14 Oct. 1959 M. FURUSE)—Holotypus in Herb. Kyo, Choshi, Ashikajima (3 Nov. 1963).

コウゾリナは種としては欧亜大陸に広く分布し、各地域にそれぞれ亜種が成立している。地理的に分化している点で私は興味をもち、植物分類地理 8 巻123—127 (1939) に東亜のものについて報告した。東亜のものはいくつか亜種があるが、いずれも果実が赤褐色である。欧州のものは果実は赤味を帯びないで、褐色、黒褐色、黄褐色である。

その後ヒマラヤのものが果実が赤味を帯び東亜系であることがわかった。しかも私には朝鮮の蓋馬高原から書いたカイマコウゾリナ subsp. *kaimaensis* と区別できない。ヒマラヤのには *P. hieracioides* var. *indica* WIGHT (1850) という名がある。

ヒンズークシやカラコラムのこの類は、果実が赤味を帯びない欧州系であることがわかった。これは subsp. *nuristanica* である。

中国の各地でどうなっているか、上にのべたように、中国のは東亜系であろうが、それが各地域でどのように分化しているか。北部や台湾のことは、それぞれ亜種があることがわかっておるが、中・西部ではどうなっているか知りたい。南部のものは北ベトナムのがコウゾリナ subsp. *japonica* であるから、これは中国には広く分布しているのであろう。種の地理的分化の点で、私には面白い植物である。こういうのが亜種という概念にまことによくあてはまり、分類学上の亜種の価値が認識される。植物命名規則に亜種の階級が置いてあるのも当然であると私は考えている。

さてその亜種としてのコウゾリナ subsp. *japonica* の中に、いろいろ地理的な分化が認められる。朝鮮・南満州のものは総苞はより緑色で花冠は常に黄白色である。これをチョウセンコウゾリナ var. *koreana* とした。日本中部の赤石山の近くに葉が細く、頭花が小さく、総苞に剛毛が少ないものがありアカイシコウゾリナ var. *akaishiensis* とした。

今度紹介するのはハマコウゾリナ var. *litoralis* である。これは関東の太平洋岸、神奈川県と千葉県の海岸に分布する。茎は叢生するが、土より少し上で多く分枝する。斜上するものが多く、長さ 10–25 cm, 根出葉が開花時にもあり、茎の中部のより大きく、ロゼット型となる。はじめ、海岸に生えているのだからコウゾリナが、こんな姿になるのは当然だと考えていた